

令和6年度 学力向上プラン（留意点入）

学校名 中央小学校

学校の教育目標

・自分も人も大切に子ども	…○ハートだ！	中央っ子！	（徳）
・よく考え行動する子ども	…○チャレンジだ！	中央っ子！	（知）
・心も身体も健康な子ども	…○ファイトだ！	中央っ子！	（体）

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

<ul style="list-style-type: none"> 各教科の「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的に学びに向かい、深い学びにつなげようとする資質・能力 課題解決するために、タブレット端末等の ICT 機器を活用し、表現・発信できる能力

令和5年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は、全国・区平均を上回っている。「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の「国語の学習はどのくらい得意か」では、昨年度より10ポイント上がった。指定された長さで文章を書いたり、話し手の伝えたい中心を捉えたり、調べたことを文章にまとめる力が高まってきている。「わかりやすい表現になるよう書き直している」では東京都が9ポイント上回っているため、引き続き高めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力を高める表現活動の工夫が十分とは言えない。 自分の書いた文章を繰り返し読み直し分かりやすい表現になるよう書き直す経験が十分とは言えない。 グループやクラス全体での話し合いや深め合う時間の設定が十分とはいえない。
算数・数学	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果は全般的に全国・区平均を大きく上回っている。「児童・生徒の学力向上を図るための調査」でも、算数の学習が得意と感じている児童が8割近くいる。引き続き、基礎基本の定着を図り、考えを説明したり、考えを深めたりする話し合いの時間を効果的に設定していく必要がある。高学年では、「億と兆・がいすうの表し方」、「角の大きさ」の単元が、目標値を5ポイント下回っているため、学習内容の定着を図る必要がある。低学年では量の概念の定着を高める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 考えを説明したり、記述して表したりすることに苦手意識をもつ児童もいる。 考えを深める時間や発表し深め合う時間の設定が十分とはいえない。 昨年度は算数科の専科教員の配当がなかったため、個別の支援が十分とはいえない。 経験や体験したことを数学的な知識・理解につなげる活動が十分とは言えない。
社会	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、全般的に平均を上回っている。「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、社会の学習を得意と感じている児童が10ポイント昨年度より上がり8割近くいる。「市のようす」、「くらしの移り変わり」について興味関心をもって学習に取り組む工夫を続け、「日本の水産業」について学習内容の定着を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 知識を活用したり、資料を読み取り比較したりする時間や支援が十分とはいえない。 コロナ禍で、例年に比べて体験的な学習が少なかった。
理科	令和5年度「学習力サポートテスト」の結果では、昨年度より全国の平均より上回った。「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、理科の学習を得意と感じている児童は8割近くいる。植物の育ち方、月と星、電気のはたらき方、物の体積、流れる水のはたらき等についての定着を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 植物や生き物に触れ合い観察する時間や実験の時間が十分とはいえない。 知識を活用したり、問題意識をもって情報に向き合ったりする時間の設定が十分とはいえない。
英語	どの学年も意欲的に学習に取り組んでいる。低学年では、外国語表現の楽しさをより感じ取ることができることが課題である。中・高学年はコミュニケーションの楽しさとアルファベットを読んだり、書いたりする知識の習得のバランスをとりつつ国際理解教育と関連付けて主体的に学習に取り組むことが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の繰り返し練習する学習が十分とはいえない。
体育・保健体育	意欲的に活動に取り組んでいる。マイスクールスポーツの全校一輪車活動にも意欲的で、1年生も徐々に乗れるようになってきている。体力テストの結果では、低学年で握力、中学年で柔軟性、高学年で持久力を高めることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> 身体の各部を使った様々な運動の経験が少ない。 運動量の確保が十分とはいえない。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、国語の学習を得意と感じる児童の割合を令和5年度のポイントを維持できるようにする。目的や相手意識をもち、指定された長さで文章を書いたり、話し手の伝えたい中心を捉えたり、調べたことを文章にまとめる活動を充実させる。
	算数・数学	身に付いている学習意欲と定着の高さを維持できるようにする。グラフや表から読み取ったことを根拠に理由を書くことができるようにする。
	社会	「市のようす」、「くらしの移り変わり」内容については、主体的に取り組めるように丁寧に学習を進める。「日本の水産業」の内容の定着を図る。
	理科	引き続き、課題意識をもち、関心・意欲を高める導入の工夫を行い、電気の動き、体積の変化、水の姿の内容については特に丁寧に学習を進める。
	英語	コミュニケーションの楽しさに加えて、アルファベットの理解について令和6年度「学習力サポートテスト」では令和5年度より上回れるようにする。
	体育・保健体育	柔軟性や持久力、握力、俊敏性について、令和6年度の体力テストでは令和5年度より上回れるようにする。
②授業改善		校内研究・OJTの充実を図り、日常的に教員同士で授業についての情報交換し、実践の中で授業改善に努める。学期末のテストにおいて、基礎・基本の学習の定着率90%以上を目指し、子どもたちが分かる授業を実践する。
③家庭との連携		「中央小家庭学習スタンダード(宿題)」を基に、継続的な家庭学習を促し、タブレット端末を活用した繰り返し学習や個の実態に対応しながら100%の子どもたちが宿題に取り組むことができるようにする。
④体力向上		マイスクールスポーツの全校一輪車活動、なわとびの取組を通して、コーディネーショントレーニングを授業で継続的にを行い、体力の向上につながるようにする。

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	学習の目的や見通しをもつために、児童とともに学習計画を立てる。物語や説明文の内容等を指定された文字数で要約する活動をくり返し行っていく。話し合い活動を充実させて考えを広げ、深められるようにする。わかりやすい表現で文章を書くことができるような活動を行う。
算数・数学	自分の考えに根拠をもって友達に伝えられるように、じっくりと考えられる時間を設定する。友達と考えを交流する活動を多く設定し、自分と異なる考えに触れさせる。具体物を活用し、体験したことを大事にし、絵や図、言葉を用いて説明する。図など根拠に、式や考えの説明する機会を増やす。
社会	「わたしたちの中央区」を中心に学習をするが、教科書も併用し「市」についても学んでいく。子供たちが意欲的に授業に取り組めるように、導入を工夫する。「日本の水産業」についての内容を丁寧に指導する。学習後に継続的に復習を行うようにする。
理科	課題を解決するための実験方法を自分たちで考え、結果を導く活動を増やす。授業の進め方を学校全体で統一する。問題→予想→実験方法→実験→結果→考察の流れで行う。学習後に継続的に復習を行うようにする。
英語	単元で学習する単語や表現を口に出して発音したり、ノートに書いたりするなど反復練習を行う。主体的に取り組めるよう、スピーキングテストの内容を日常会話に近づける。
体育・保健体育	準備運動にストレッチ・持久走・固定道具を使った様々な遊びなどを授業の最初に毎回行う。単元のはじめにその単元の運動の基礎となる動きを指導する。

②授業改善

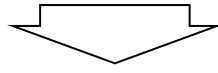
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・校内研究を通して、子どもたちが主体的・対話的で深い学びを実現することができる指導法について研究する。・教科担任制の取り組みを通して授業改善を進める。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・定期的に OJT 研修会を開催する。各教科の「見方・考え方」や授業についての教員同士の対話・紹介し合うことを重ねて、考え方や課題等を率直に話し合うことで、授業改善のポイントを自覚し指導技術の向上を図る。

③家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・保護者会・学校公開、年2回実施する個人面談を中心に、教育活動について保護者の理解を求め、協力を依頼するとともに、学校と家庭が一体となり、子どもたちの成長を支援しようとする意識を醸成する。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・「中央小家庭学習スタンダード(宿題)」をもとに、復習だけでなく予習も取り入れた家庭学習ができるよう協力を求める。

④体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・連続性のある運動量を確保できるような場の設定をする。また、準備運動ではコーディネーショントレーニング等、弾みや反動を使った動的なストレッチ等を継続的に行う。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・マイスクールスポーツである全校一輪車活動を継続する。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語		
	算数・数学		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育・保健体育		
②授業改善			
③家庭との連携			
④体力向上			